

本 会 記 事

○月例会

(41年11月20日, 於 電子協会議室, 出席者 30名)
「計算機による動画作成」について, 津田順司氏(日立中研)が多くの写真と図表を使って説明し, その後約30分にわたり質疑応答があった。

(42年1月17日, 於 電子協会議室, 出席者 28名)
「IDS (Integrated Data Store)」について, 上村義明氏(三菱原子力)が講演を行なった。

(42年2月21日, 於 機械振興会館6階会議室, 出席者 55名)

「計算機による Display と Man-machine Interaction」について, 穂坂 衛氏(東大宇宙航研)が16ミリ映写および多数の写真を使いながら講演した。

○研究委員会報告

SC 研究委員会

(第29回, 41年12月15日(木) 於 電子協会議室, 出席者 11名)

(1) ソ連における電子計算機の現状について, 山中委員から帰朝報告があり, あわせて「事務の機械化と設計の自動化に関する国際見本市」の視察報告があった。

(2) 国鉄の座席予約システムの実績につき, 安部氏(日立)から報告があり, 討論をおこなった。

(第30回, 42年1月26日(木) 於 電子協会議室, 出席者 16名)

複合小形電子計算機によるリアルタイムシステムの一例として, 日本中央競馬会の FACOM トータリゼータ・システムにつき, 井上直敏氏(富士通)から講演があった。

MT 研究委員会

(1月21日(土) 於 日本電子工業振興協会会議室, 出席者 16名)

(1) 英文分析のための KWIC (共同研究者 蓼沼良一, 坂本義行(電試), 玉川 仁(東洋大))につぎ蓼沼氏が KWIC による英文分析の実験結果を報告した。

(2) 文節の構造 (2)-辞と辞との結合関係

柏木敏子氏(電試)が昨年の月に行なった続きの研究結果を報告した。

EDPS 研究会

(41年11月29日(木), 於 電子協会議室, 出席者 8名)

UNIVAC-1108 File Control System について(報告者 早川公正 (NRU))

UNIVAC-1108 ではプログラムもデータもファイルとしてドラムに格納しておいてとりあつかう。各ファイルには, ファイル名, project 名, 書き込みキー, 読み出しキー, 登録した日付, 最後に参照した日付, roll out した場所, granule (読み書きの単位)などが記録してあり, UNIVAC-1108 File Control System はこれを使って, ファイルの保護, 不急のファイルの磁気テープへのはき出し, 新しいファイルのために必要な場所の確保, 入出力の交通整理などを行なう。

(42年1月18日, 於 電子協会議室, 出席者 6名)

来年度のこの研究会の研究活動の検討を行なった。

すでにこの研究会が発足して5年以上にもなったので止めてはどうかという意見があったが, 今後も新しい話題はつぎつぎにあらわれることが予想されるので存続してほしいという声の方が多かった。また, EDPS 研究会と COBOL 研究会は出席者に同じメンバーが多く, 共通の話題も多いことから二つの研究会をいっしょにするという案が出てこれが採択された。

そこで来年度(昭和42年度)より, EDPS 研究会と COBOL 研究会をいっしょにして『ソフトウェア研究会』とし, 次の研究調査を行なうことにきめた。

1. システムプログラム

(ファイルシステム, オペレーティングシステム, IOCS, 金物の評価など)

2. プログラム言語

(たとえば, COBOL の標準化, 日本語 COBOL の検討, 言語のあり方など)

3. 応用プログラム

(事務計算用プログラム, 各種パッケージ)

COBOL 研究会

(1月18日, 於 電子協, 出席者 8名)

(1) COBOL 65 年出版紹介 西村委員

文法の記述が明白になった点, 正書法や計算の仕方など仕様が変更になった点をひとつとおりさらった。

(2) 文字項目での編集

大駒委員

COBOL Confidential の例で、数字項目と文字項目とのあいだの転記における桁あわせ、符号、桁数のとりあつかいにあいまいさがある。また金物によって符号の占有桁数がちがう。65年版の説明と、各社の解釈とをとりまとめることにする。

(3) 来年度事業計画

当研究会は解散せず、改組することにした。

関 西 支 部

○特別講演会

42年1月27日(金) 午後2時から、日本生命中之島ビルで、「アメリカにおけるコンピュータ利用の現在と将来」につきウィスコンシン大学の J.B. Rosser 博士から講演があった。出席者 175 名。

○研究会報告

システム・ソルビング研究会(第27回)

(1月25日(水) 於 生産性関西地方本部会議室, 出席者 6 名)

Computers and Thought の part 3—Steps toward artificial intelligence III につき、渡辺重明

氏(追手門学院大)が報告した。

(3月1日(水) 於 生産性関西地方本部会議室, 出席者 7 名)

Computers and Thoughts の Part 3—Steps toward artificial intelligence IV につき石桁正士氏(阪大)が報告した。

数値解析研究会(第21回)

(2月6日(月) 於 生産性関西地方本部会議室, 出席者 18 名)

分子軌道法による電子密度の計算法のプログラムにつき、水田栄治、田辺郁子の両氏(武田製品工業)が報告した。

○41年度評議員会(第1回)

(2月15日(水) 於 生産性関西地方本部会議室, 出席者 12 名, 委任状 16 通)

関西支部昭和41年度第1回評議員会を開き、下記の議題につき審議した。

1. 諸般報告
2. 支部評議員改選の件
3. 支部長改選の件
4. 42年度の事業運営の件
5. その他

お 願 い

7巻6号および8巻1号でお願いしました名簿用カードを未提出の方は5月15日までに必ず学会にご返送ください。

なお、ご返送のないときは、学会の会員原簿によって記載いたしますので、ご了承ください。